主題：神の建造の内在的な構成を知り経験する

メッセージ　10

神の建造のために神の確かなあわれみとしてのキリストを享受することによって、神の増し加わりによって成長する

聖書：サムエル下 7:12-14 前半．イザヤ 55:1-3．詩 110:3．箴 4:18．啓 2:4-5, 7

Ⅰ．ダビデの子孫としてのキリストは、復活の中で命を与える霊としての神の長子となったとき、神の確かなあわれみとなってわたしたちの中に分与され、神の家また神の王国としての召会を建造しました――サムエル下 7:12-14 前半．イザヤ 55:1-3．使徒 13:33-35：

A．神の確かなあわれみは永遠の契約であり、この永遠の契約は、わたしたちの享受のためのすべてを含む命を与える霊としての、復活したキリストご自身です――イザヤ 55:3．42:6．Ⅱコリント 3:6。

B．神は信実であってわたしたちを彼のエコノミーの中に導くことによって彼の永遠の契約を守り、彼のエコノミーはわたしたちがキリストを享受し、キリストを吸収し、キリストを飲み、キリストを食べ、キリストを同化して、神の建造のために神の増し加わりによって成長することです――Ⅰコリント 1:9．マタイ 16:18．エペソ 1:22-23．コロサイ 2:7, 19。

C．わたしたちに問題を持たせることで、神は彼の目的において信実です。わたしたちの平和、安全、健康、財産は、わたしたちの偶像となるかもしれません。神は信実であってこれらのものを取り除き、わたしたちが、生ける水の泉としての彼から飲むようにします――エレミヤ2:13．イザヤ55:7．57:20，フットノート1．ヨハネ4:13-14。

D．キリストが彼の召会を建てるのは、わたしたちの霊の食物また飲み物としてのご自身をもってわたしたちを供給し、霊的な消化と同化の新陳代謝的な過程が、命における成長と造り変えのために起こることによります。命における成長と造り変えは建造です――Ⅰコリント3:6-12前半．10:3-4．Ⅱコリント3:16-18．エペソ2:21-22．4:15-16。

Ⅱ．わたしたちが神の建造のために神の増し加わりによって成長するのは、キリストとの個人的で愛情に満ちた関係を持つことによってです――雅 1:1-4：

A．主の回復は主イエスを愛し、彼を享受して彼の証しとなることの回復です――啓 2:4-5, 7．Ⅱコリント 11:2-3。

B．主を愛するとは主の臨在を顧みることです。わたしたちが主の臨在を持つなら、事物に関する知恵、洞察力、先見性、内なる知識を持ちます。主の臨在はわたしたちのすべてです。もし神の臨在を失うなら、すべてを失います――出 33:11 前半, 14．Ⅱコリント 2:10。

C．最上の愛をもって主を愛することは、わたしたちが時間を取って彼を見つめ、彼の言葉に聞き入り、彼に関する啓示を受けることを要求します。勝利者はキリストの最高の啓示を持ち、献身の輝きの中で進んで自分を主にささげます――マタイ 26:1-13．詩 110:3．創 12:7-8。

D．マリアは主の足もとに座って彼の言葉に聞き入りました。主の死に関する彼の言葉と啓示を聞き、受けて、マリアは彼が死ぬ前に彼を油塗る機会を求めました――ル

カ 10:38-42．マタイ 26:1-2, 12．参照、16:21．17:22-23．20:18-19。

Ⅲ．わたしたちが神の建造のために神の増し加わりによって成長するのは、自分の献身を主に対して新鮮で最新のものとすることによってです――詩 110:3．レビ 6:12-13：

A．わたしたちはキリストの犠牲の命を持っており、彼の抑制する愛はわたしたちを動機づけて、自分自身を彼にささげさせ、彼の奴隷とならせ、神、召会、神の民を愛させます――出 21:1-6．Ⅱコリント 5:14．ローマ 1:1．参照、ガラテヤ 6:17。

B．わたしたちは奴隷の霊、奴隷の愛、奴隷の従順、奴隷の命を必要とします。進んで奴隷となる者たちだけが、永久に召会生活の中にとどまることができます――5:13-16．参照、ピリピ 2:17．士 9:13。

C．奴隷は自分のためには何も行なわず、ただ主人の言葉にしたがって行動する立場を取るべきであり、彼の耳は開かれて主人の声を聞くべきです――出 21:6．ヨハネ 5:30．詩 40:6．イザヤ 50:4-5。

Ⅳ．わたしたちが神の建造のために神の増し加わりによって成長するのは、主の満足のために主との個人的な時間を費やすことによってです――詩 110:3：

A．わたしたちの極めて重要な必要は、三一の神が朝ごとに彼の言葉を通してわたしたちの中に注入され、わたしたちが自分から出て来て三一の神の中に入ることによって聖別されることです。真理の言葉を通しての聖別は一という結果になり、わたしたちを分裂の要因、すなわち、この世的であること、野心、自己を高く上げること、意見、観念から救うことができます――ヨハネ 17:17, 21, 23．エペソ 6:17-18。

B．クリスチャン生活は日の出のようなものです。わたしたちは太陽に従って復興され、毎朝新しい開始を持って、主の最新の究極の行動のために、主に対して自分を空にし、開き、新鮮にし、新しくし、生きたものとし、若くするべきです――箴 4:18．エゼキエル 36:26-27．ローマ 6:4．7:6．参照、詩 22 ――主題。

C．わたしたちはさらに高い段階に、「高い山」に達し、群衆から分離されて、個人的に密かに御父と共におり、彼との親密な交わりを持つ必要があります（マタイ 14:22-23．マルコ 1:35．ルカ 5:16．6:12）。わたしたちは自分を完全に彼に開くことができ、彼の臨在の輝く光の中で、自分の罪、弱さ、間違い、妨げ、困難を彼に告白し、彼の赦しと清めを受けることができます。こうしてわたしたちと彼との間には何もなく、わたしたちは光に満ちて神を輝かし出します（Ⅰヨハネ 1:5, 7, 9．ルカ 11:33-36）。

D．主イエスは、わたしたちは祈る時、密かに戸を閉め、隠れている御父に隠れて祈るべきであると告げました。この個人的な時間の中で、わたしたちは彼に来て彼を食べ、彼を飲み、彼を享受することができます――マタイ 6:6．ヨハネ 6:57。

E．とりなしの祈りは、神の心の内なる意図にしたがった神との親密な会話です。このために、わたしたちは神の臨在の中にとどまらなければなりません。とりなしの祈りは、自分自身のための祈りではなく、神聖な行政を遂行するための、神の供給する恵みを分与するための、召会と聖徒たちのための祈りです。そのような祈りは神にとって香ばしい香です。それは彼の目的を成就し、彼の願いを満足させ、彼の心を喜ばせます――創 18:22-33．ローマ 8:26-27．出 30:7．啓 8:3-4。

©2006 Living Stream Ministry